

2017年度 学校評価報告書（幼稚園）

学校目標 (園目標)	カトリックの人間観・世界観にもとづく教育をとおして、ひとりひとりの持つ個の魂（心の火種）を大切に他者を慈しむ心、生きる力を培う保育をする。
---------------	---

校長名 (園長名)	江島 幸子（代筆：田中圭祐）
--------------	----------------

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 遊びを通して主体的・協働的な学びができる保育を強化する。 様々なことに興味関心を持たせ、敏感期の子どもたちの自立や自己肯定感を育む。 教員のスキル向上研修と共に、子どもたちが毎日過ごす環境を、明るく・美しく・安全に整える。 京都子育てネットワークと連携し、子育て支援イベントを実施する。
------	--

学 校 自 己 評 価				
目 標		評 価		
番号	重点目標	具体的方策	取組の成果	次年度への課題と改善
1	遊びを通して主体的・協働的な学びができる保育を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムをブラッシュアップする。 サーキット遊びを園庭で毎日30分実施し、体力づくりを目指す。 2017年度より、水曜日午後保育とし、保育時間を延長する。 小学校をはじめ他所との交流を活発にし、学院全体で園児を見守る 	<ul style="list-style-type: none"> 保育内容や体験活動をより充実させ、子どもたちの知的好奇心を高めることができた。 身体を動かすことで、精神的にも発散することで心の浄化作用ができた。 午後6時までの預かり保育の実施を2017年度より午後6時30分に延長することで、働く母親の手助けになった。 七夕交流会・年長組の京都聖母学院小学校図書館交流・誕生会における京都聖母学院小学校合唱団やブラスバンド部の発表などで、親しみや憧れの気持ちをもつことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 観点の見直しか項目の見直しか、時間数の見直しか、いずれについても見直しが必要であるかという共通理解をする。 サーキット運動と律動運動について、それぞれのねらいに即して実施できるように、研修の機会を持つ。 預かり保育は、年々利用者が増えているので、新設される保育園とも連携できる体制づくりを目指す。 引き続き、連絡を取り合い内部連携できるよう努める。
2	様々なことに興味関心を持たせ、敏感期の子どもたちの自立や自己肯定感を育む。	<ul style="list-style-type: none"> 折る・切る・貼る・縫う・塗る、それぞれの領域で新教材を作成。 担任による日々の宗教教育に加え、管理職による神さまのお話を実施。 専門の指導員による豊かな体験を提供 毎週水曜日にも給食を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 本園独自の取り組みエッセイズを充実させることができた。 素直な心で神様に向かうことができた。 心と体の鍛錬と体力の向上を図り、正課体操保育実施することで、子どもたちの運動能力を伸ばし、正課英語保育も楽しみながら自然に英語や国際感覚を身につけられた。 食育教育の一環として週3回実施している給食を週4回に増加し、子どもたちの食への関心をより深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> エッセイズに取り組む時間を十分に保障できるようにする。 伏見教会をはじめ、中高や短大のオラトリウムを利用することで、独特の雰囲気や空間を味わうことができるので、今後も継続的に実施する。 専門教員に任せて補助にならないよう保育者は常に高い意識をもって保育に参加するように心掛けさせる。 食べ残しの指導にクラス差が出ないよう確認する。
3	教員のスキル向上研修と共に、子どもたちが毎日過ごす環境を、明るく・美しく・安全に整える。	<ul style="list-style-type: none"> エッセイズ担当者による指導方法の伝授や教材作成を年3回実施。 神父様や宗教担当者による研修を実施。 管理職による新任研、参観指導を実施。 メンタルヘルス対策としてマインドフルネスを実施、朝礼で沈黙の時間を設ける。 幼稚園バス運行について、2016年度の各ルート別利用者数の分析 	<ul style="list-style-type: none"> 本園独自の取り組みであるエッセイズを充実させることができた。 カトリック教育の理解を深めることができた。 どのような保育をすることが大切かを念頭に置き、個々の目標と計画をたてて実行させ、自己評価して改善に努めることができた。 学校カウンセラーによる教育相談の実施を継続し、学期に1回は任意で面談を実施することができた。 バス停留所を見直し、各ルートによって利用者数に偏りが出ないようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材を準備作成するのはフリーの教員で担任との連絡や情報交換が不十分だった。その意図や手法について、継続的に研修会を実施する。 職員が研修などを通じて、カトリックの人間観・世界観について話し合うような機会を作る。 役に立ったと思えるような研修を目指す。 職員室の雰囲気や職員同士の人間関係など、さらなる信頼関係の構築に向けて、努力する。 コースやバス停の見直しを含めて、利用者のメリットを実現できるようにという視点を大切にする。
4	京都子育てネットワークと連携し、子育て支援イベントを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 地域子育て支援イベント、講演会を実施する。 現行の地域子育て支援サロンの開放に加え、園庭開放日に合わせて子育て相談会を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 未就園児対象のイベント『せいぼであそぼ!』を年9回に加え、園庭開放を年6回実施から、毎週水曜日実施に増加したことで、多くの見学者を得ることができた。 2016年度に引き続き、在園児と未就園児対象に12月に震災復興支援バザーを開催し、深草商店街より、井上商店・ペーカリー-eightの協力のもと、商品販売を依頼し、地域との交流を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 未就園児に、興味を持ってもらえる、名前を知ってもらえる園になれるよう募集広報活動に重点を置く。 参加者の気落ちを理解するためにもアンケートを活用する。 地域の人から選ばれる信頼される幼稚園であり続けるために互いに益となるような交流を考えていく。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	2017年 3月 19日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>以下の観点から評価を実施した。</p> <p>①今年度の学校評価の内容について</p> <p>②学級・学年・学校の取り組みは保護者が満足するものであったかどうか。</p> <p>③今後本園に望むこと。</p> <p>①および②について 回答率は、62%であったが、どの設問も全体にそう思う・おおむね思うの回答が多く見られたので、引き続き保護者の期待にそえるように取り組んでほしい。 学年による回答のばらつきは見られない。概ね満足しているように見える。</p> <p>③について 更なる預かり保育の充実とともに、園の様子が伝わるように、ホームページやブログについて満足度が高められるよう期待する。</p>	